

# 「友松」の変遷

No.8 平成 22 年 (2010) 10 月



昭和 12 年 (1937 年) 12 月 15 日発行  
 第 22 号 A5 版 総ページ 94 ページ  
 縦書き 一段または二段組み

< 主な内容 > ( 数字はページ数 )

- \* 会長挨拶 学校長挨拶(4)
- \* 恩師並に会員御寄稿(21)
- \* 弔慰(9)
- \* 会員談話室(5)
- \* 会員集会(15)
- \* 各支部消息(10)
- \* 会計会務報告(1)
- \* 雑録 (会則・役員等) (7)
- \* 編集後記(1)

表紙の絵を見ると、戦時下 (日支事変) の様子が表わされている。出征する兵隊を見送る絵で、幟に「祈武運長久」「祝出征」と大書され、見送る女性の襟に「大日本国防婦人(会)」と書かれている。見送る人は、手に手に日の丸の小旗を持っている。このような光景は、当時、毎日のように見られたという。

抜 抄

友松会長 水 島 藤 吉

不測の變 東亞の一隅に超りてより、既に五月、皇軍の威武は北支の山河を制し、江南の空を圧して、陸に空に海に、戦勝の快報は刻々に伝えられ、今や我が皇軍の精銳は破竹の勢をもって首都南京に逼らんとす」と書かれ、当時の世情が表わされている。

師範学校長の挨拶も、「南京攻略の意気衝天、蔣に降伏勧告書投下」(昭和 12 年 11 月 23 日朝日新聞) と新聞の見出しを引用して書き始めている。

そして、「我々教育者はこの御聖旨(勅語)を奉戴して銃後国民をして真に日本精神の体得者たらしめ、和夷協力国難打開にいそませるの覚悟をもたねばならぬのであります」と文中に記している。また、「友松会総会で、真剣に会員の団結、会員の親睦、会員の研究、会員の発展等が論議されたことを聞くことが出来喜びに堪えなかった」と述べている。

会長の挨拶は、「皇軍の威武は北支の山河を制し、江南の空を圧して、陸に空に海に、戦勝の快報は刻々に伝えられ、今や我が皇軍の精銳は破竹の勢をもって首都南京に逼らんとす」と書かれ、当時の世情が表わされている。

師範学校長の挨拶も、「南京攻略の意気衝天、蔣に降伏勧告書投下」(昭和 12 年 11 月 23 日朝日新聞) と新聞の見出しを引用して書き始めている。

そして、「我々教育者はこの御聖旨(勅語)を奉戴して銃後国民をして真に日本精神の体得者たらしめ、和夷協力国難打開にいそませるの覚悟をもたねばならぬのであります」と文中に記している。また、「友松会総会で、真剣に会員の団結、会員の親睦、会員の研究、会員の発展等が論議されたことを聞くことが出来喜びに堪えなかった」と述べている。

